

パラスポーツフェスタちば2021感染症防止策リスト

パラスポーツフェスタちば実行委員会

<全般的な事項>

- 感染防止のため主催者が実施すべき事項や参加者が遵守すべき事項をあらかじめ整理し、チェックリスト化したものを受付付近に掲示する。
- 万が一感染症が発生した場合に備え、参加者より提出された書面を令和3年12月末日まで保存し、期限が来たら速やかに適切に処分する。
- イベント後に参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合や、地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合の対応方針について、千葉県新型コロナウイルス感染症対策本部とあらかじめ検討しておく。

<参加募集時に参加者に求めること>

- 参加者が以下の事項に該当する場合は、参加の見合わせを求めること（参加者募集時はHP上で確認できるようにするとともに、イベント当日には書面で確認を行う）。
 - 体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
 - 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- マスクを持参すること、運動時以外はマスクを着用すること。
- こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。
- 他の参加者、主催者スタッフ等との距離（できるだけ2m）を確保すること（障害者の誘導や介助を行う場合を除く）。
- イベント中、大きな声で会話、応援等をしないこと。
- 接触確認用アプリを活用すること。
- 感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従うこと。
- イベント終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること。

<当日参加受付時の対応>

- 受付窓口には、手指消毒剤を設置する。
- 受付で参加者の体温を測定し、発熱が認められた場合入場を制限する（37.5度以上）。
- 咳・咽頭痛などの症状がある人は入場を制限する（ヘルスチェックシートで確認する）。
- 参加者が距離を置いて並べるように目印を設置する。
- 受付を行うスタッフにはマスクとビニール手袋を着用させる。
- 受付など人と人が対面する場所は、受付シールドで遮蔽する。
- 総合受付箇所を複数箇所設置し、受付時の混雑を解消する。
- 参加者から以下の事項を記載した書面の提出を求める。
 - 氏名、年齢、住所、連絡先（電話番号）
 - イベント前2週間における以下の事項の有無
 - ・ 平熱を超える発熱（おおむね37.5度以上）
 - ・ 咳、のどの痛みなど風邪の症状
 - ・ 嗅覚や味覚の以上
 - ・ 体が重く感じる、疲れやすい等
 - ・ 新型コロナウイルス感染症とされたものとの濃厚接触の有無
 - ・ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ・ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
 - 参加者がマスクを着用しているか確認する。

<主催者および施設が準備すること>

- 専門スタッフ**
 - 参加者や主催側スタッフが、体調面で相談ができる看護師を配置する。
 - 障害を持った方が看護師に体調面での相談ができるよう、手話通訳者、盲聾者むけ通訳介助者、イベントスタッフ等を配置する。
- 休憩スペース**
 - 各競技団体の控室は、最少人数になるように各団体に割り当てる。
- 洗面所**
 - トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブやレバー）は、こまめに消毒する。
 - トイレのふたを閉めて汚物を流すよう表示する。
 - 手洗い場には石鹸を用意する。
 - 「手洗いは30秒以上」等適切な手洗い方法について掲示をする。
 - 手洗い場所から遠い場所には、各体験ブースに手指消毒剤を用意する。
 - 参加者、主催側スタッフには、タオルを持参するように呼び掛ける。
- 飲食物の提供時**
 - スタッフが昼食（弁当）をとる場所には、手指消毒剤を十分な数配置する。
 - スタッフが昼食をとる際に、手洗い、手指消毒を行うよう声をかける。
 - スタッフに提供する飲食物は、個包装、未開封の物に限る。
 - 飲食物を扱うスタッフのマスク着用と都度都度の手指消毒を徹底する。
- 参加者の管理**
 - 大声での声援や会話は控えるようアナウンスするとともに、必要に応じて個別対応する。
 - 体験時以外は、参加者が常時マスクを着用するよう呼びかける（アナウンス、個別対応）。
 - 参加者、主催側スタッフが密にならないよう、各所に待機場所の明示、誘導表示、誘導スタッフの配置をする。
- 体験会場**
 - 扉を定期的に開放する。
- ごみの廃棄**
 - ごみの廃棄場所は、参加者や主催側スタッフがわかりやすい場所に配置する。
 - 唾液や鼻水がついたごみは、ビニール袋に入れて密閉して縛ってから捨てるよう表示する。
 - ごみを回収する人は、マスクや手袋を着用する。
 - マスクや手袋を脱いだ後は、必ず手指消毒するよう呼びかける。

<体験等を実施する上での感染症対応>

- 体験者や待機者が密にならないよう、参加者数を管理するとともに、体験会場や待機場所のスペースを十分確保する。
- 待機場所は足形表示等を用いてわかりやすく示す。
- 各体験会場の受付には、手指消毒剤を配置する。
- 各体験会場の受付は、受付シールドで遮蔽する。
- 参加者および主催側スタッフには、事前事後の手指消毒を徹底させる。
- 各体験会場には、体験者や待機者を誘導するスタッフや、器具の消毒を担当するスタッフなど、感染症対応の専任スタッフを配置する。
- 体験時間が15分を超えないよう体験運営を工夫する。
- 密や身体的接触が生じないように、簡略化を図るなど体験方法を工夫する。
- 用具を共有する体験は、定期的に消毒する。
- 用具の定期的な消毒が困難な体験は、参加者に使い捨てのビニール手袋等を着用させる。
- 各競技の競技体験や対抗戦の実施に際しては、各競技の競技団体が示す「ガイドライン」や「感染症対応チェックリスト」に基づいて実施する。
- 体験会や対抗戦の実施に当たっては、体験会講師と感染症対応について事前協議する。

※令和3年9月24日時点での防止策です。状況に応じて、今後更新する可能性があります。
最新の情報は、イベントHP (<https://chibacity.spo-sin.or.jp/program/9301/>) に掲載します。